

# ほけんだより 3月

令和4年3月4日  
調布市立滝坂小学校  
校長 小林美也子  
養護教諭 玉置真美

1年間の締めくくりの時期を迎えました。6年生にとっては、小学校生活の終わりが一刻と近付いています。卒業式の日には、6年間で振り返り笑顔で滝坂小学校を巣立ってほしいです。

また、今年度もコロナ禍で感染症対策などお願いばかりの日々でしたが、保護者の皆様には日ごろからご理解とご協力をいただき大変感謝しております。今後も力を合わせて、子供たちが安心・安全に学校生活を送ることができるようご協力をよろしくお願いいたします。



## 保健室利用状況（1年間のまとめ）

【けが】	【びょうき】
1学期 387人	1学期 164人
2学期 512人	2学期 121人
3学期 224人	3学期 55人
合計 1123人	合計 340人

コロナ禍のため、朝から体調の悪い人は自宅で休養していただくようお願いしています。学校で体調不良等があれば、早い段階で早退の対応を行っています。

保健室来室者は昨年度と比較して197人増加しました。けがの理由は打撲が一番多く、次に擦り傷、切り傷が多いです。また、3学期には冬場の校庭の状態が悪く、ぬかるみでの転倒やその他不注意によるけがの来室が目立ちました。

軽いけがは教室の救急セットでの対応とし、保健室の来室が減ることで、一人一人と向き合う時間を十分に確保することができます。



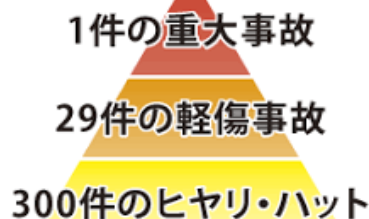
### ～～重大事故を防ぐために～～

1件の大きな事故の背景には、29件の軽傷な事故があり、さらにその背景には300件のヒヤリ・ハット（「ヒヤリ」としたり「ハッ」とした経験）が存在していると言われています。

学校生活の中でも、子供たちや教員がヒヤリ・ハットの経験をすることが多くあるため、事故を防ぐために子供たちへの生活指導や定期的な校内の安全点検を行っています。

もし起きてしまった場合には「何が原因だったのか」「どうしたらよかったのか」など、これからの対策を考えて行動し、危機管理を高めることができるよう、声掛けや指導を継続していきます。

#### ハインリッヒの法則

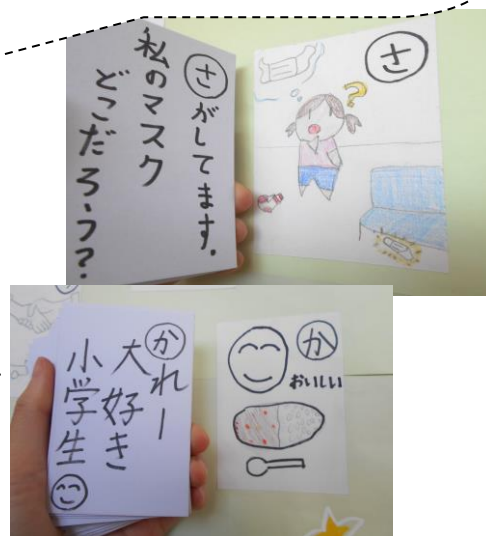


# 保健委員会活動記録 ～けんこうかるた～

2月の活動は、日常生活や健康に関する内容で、50音から読み札と絵札を作成し「けんこうかるた」を完成させました。休み時間に子供たちが自由に遊べるように、保健室前に掲示しています。



4年生がかるたにチャレンジしている様子です。さすが、子供たちは見つけるのが早い！「絵が上手」「かわいい」「おもしろい」などと言ってくれる人もいました。保健委員が一生懸命作ったものを、たくさんの人に見てもらったり遊んでもらったりして、とても嬉しく思います。



クスッと笑える読み札や絵札もあり、子供たちの個性的な発想と光るセンスにいつも驚かされます！

## 保健室から ちょっぴり長いつばやき… “私の趣味！？「献血」と「ドナー」のお話”

大学1年生の時、友達と興味本位で訪れた献血ルーム。お菓子やアイスが無料で食べることができ、場所によっては漫画が読み放題、そして自分の血液検査の結果から健康管理に役立てることができる上に、人助けができる！？そのような自己満足で、いろいろな場所の献血ルームに行くことが趣味の一つになっていました。初めて献血に行った日には、その場で骨髄バンクの説明を受け、あまり深く考えることなく登録をしていました。

そして約1年前、その骨髄バンクから、「あなたとある患者さんの血液の型（HLA）が一致した」と通知がありました。いわゆる骨髄提供のドナー候補者に選ばれたということです。適合するドナーが見つかる確率は兄弟姉妹の間でも4分の1、血の繋がっていない他人になると数百～数万分の1と言われています。まさか自分がその数百～数万分の1のドナー候補者に…！

学生のうちであれば、迷わず提供の意思表示をしていましたが、あまりにも突然の話に、学校に1人しかいない養護教諭として働いている今、自分が数日不在の間に子供たちに何かあったらどうしよう…などと真剣に悩み、その時は事務室で相談にのってもらったことを思い出します。

家族や学校からの理解を得てドナーになりたいと意思表示をしてからは、話が順調に進んでいましたが、今回は患者さんの都合により、最終的に提供までは至りませんでした。その時は自分が力になれなかった空虚感と、保健室にいられるというホッとした気持ちとが交差していたのも事実です。しかし、自分が患者さんの選択肢の1つになれたことは前向きにとらえ、現在も定期的に献血に通い、コレステロールの数値改善を課題に毎日過ごすようにしています！



伝えたいことは「自分の健康が、誰かの役に立つことがある」ということです。大切な家族や病気と闘うどこかの誰かのためにも、まずは自分が健康であることが何よりも大切であり、幸せであることを心に留めてほしいと思います。コロナ禍も重なり健康に対する意識が高まる中で、一生に一度無いかもしれないこの経験から、養護教諭として子供たちの命を預かるこの仕事に誇りをもち、健康であること大切さを子供たちに伝えていけたらと思います。